

「更新用症例報告書」記載の手引き

記載もれ等不備があると審査対象にならないこともあるため、以下の点に注意して下さい。

- * 所定の症例報告用紙（様式 2）に 1 症例ずつ、A4 用紙 1 枚に収まるように作成して下さい。
- * 様式 2 は学会ホームページよりダウンロードして下さい。
- * ワードプロソフトを使用して、1 症例 1000 字以内で記載して下さい。図や表、写真も入れても構いませんが（字数にはカウントしません）、A4 用紙 1 枚に収まるようにして下さい。
- * 症例については、福祉用具や自助具製作症例でも構いません。
- * 社会活動や教育活動の具体例には、講演（本学術集会以外でも可）、本学術集会での発表や座長、本学会での委員の経験、あるいは判定医や授業の担当なども含みます。
- * 1 症例ずつ A4 用紙 1 枚に記載し印刷して下さい。
- * 報告書ごとに受験者氏名、通し番号（1～）を忘れずに記載して下さい。
- * 申請書（払込金受領書添付の上）と、印刷した報告書計 3 通を同封して、事務局まで送付して下さい。
- * 処方箋や証明書などのコピーを併用する場合は、合計で 3 つの報告となるようにして下さい。

【症例記載の参考例】

症例番号： 1 施設名： JSP 回復期リハビリテーション病院
患者年齢： 60 歳 性別： 男

【診断名（障害名）】 左下腿切断

【既往歴】 高血圧

【社会背景】 会社経営、妻と息子と 3 人暮らし

【経過病歴】 X 年 X 月 X 日朝 8 時頃、出勤時に横断歩道を渡っていたときに右折してきた車と接触。左下腿を轢かれ、変形出血があったため救急車で前医搬送。下腿中央以遠の変形と出血が強く、保存加療が出来ないと判断され、同日左下腿切断となった。6 週間後、創部も安定したことから回復期病院へ転院、リハビリテーション開始後に義足作製となった。

【初期評価】（身体所見や障害の程度など）

切断長 膝下 10 c m 健側下腿長 38 c m

【問題点】（考察につながるような問題点を挙げて下さい）

短断端であったこと

【作製した義肢装具等】（義肢）

下腿義足（骨格構造）、TSB 式ソケット、に変更、シリコンライナー（ピンアタッチメントあり）、SACH 足部（細かく内容を記載しても構いません）

【帰結】 屋外歩行自立にて退院。

【考察】

やや短断端ではあったが、ピン式下腿義足作製し、リハビリテーション後に独歩可能となった。途中、断端部の痛みと幻肢痛があったが、適切な疼痛コントロールが出来、歩行訓練を行うことが可能となった・・・。（など、問題点に対する解決法などの考察を記載して下さい）